

宛先	質問	回答
三戸先生	分娩時の血栓のリスクとして肥満であることの理由を講義を通じて学ぶことができました。血栓のリスクとして3回以上の経産婦とガイドラインにあるのですが、なぜなのか具体的に教えていただきたいです。	詳細についてはわかりませんが、複数の産科医や、ガイドライン担当医師にも確認しましたが 臨床的には明らかな印象(3回以上の経妊で分娩後のVTEリスクが上がる)はないとのことでした。

宛先	質問	回答
今井先生	(個人的な質問です) 3年近く交際している人がいますが、いままで一度も腔内射精をしたことがありません。コンドームの締め付けが強く、オーガズムだけ感じて、射精されないようです。コンドームのサイズは通常より大きいものを使ったり、工夫はしているのですが、対処法が他に分からないため教えて欲しいです。(オナニーを手伝う方法しかできていないです)	まず気になったのが、「オーガズムだけ感じて、射精されない」というところです。本当にそうなら、逆行性射精の可能性があり、薬物治療の必要があります。オナニーで射精できるのであれば、逆行性射精ではなく、いわゆる「イッたふり(本当はオーガズムを感じていない)」であり、本当はセックス中に射精できそうにないのだけれど、気を使って気持ちがいいことを伝えようとしているのだと思います。 オナニーで、射精までにかかる時間も重要です。毎回15分以上かけないと射精できない場合、そもそも射精の技術が習得できていない可能性があります。その場合、まずはオナニーで10分以内に射精できるよう訓練する必要があります。そして、「5分以内に射精しようと思えばできるし我慢することもできる」というところまでいけば、「射精がコントロールできる状態」と言えます。 オナニーでは割と自由に射精できるという場合は、腔内射精へ向けて射精の訓練をしていたでいます。用手的なオナニーではなく、よりセックスでの刺激に近づけるためマスターベーションを使ったオナニーをしていただきます。よく使用するのは、TENGAヘルスケア社の「MEN's Training Cup Finish Training」で、挿入時の締めつけ具合が異なる5種類のカップを使用して射精の訓練をします。それ以降の訓練のステップもありますが、詳しくは、「TENGAヘルスケア社」、「MEN's Training Cup Finish Training」で検索してみてください。
	ご家庭の性教育に本をあげたというお話がありましたが、その後反応はありましたか	直接的なやりとりはありませんが、会話の端々から読み取ると、こういう仕事をしている親に対して少なくとも嫌悪感を抱かれていないようです(笑)。子どもたちが通っていた学校に性教育の講演に行ったことはありませんが、違う高校に行った友人から「今日、お前の父ちゃんが(性教育に)来たでー」などと、いろいろ話題にはされていたようです。 長女は、旅先から「交尾しているバツタの写真」をラインで送ってきたことがあり、この仕事を理解してくれているのだと安心したりしていました。
	学校(中高)で性教育をする際、男子に性的同意やメンタルの大切さを男子の心を傷つけずに伝える良い方法がありますか。(セックスや異性に対して、ネガティブな感情を持つ男子が多くなっている) 相手を知るというコミュニケーション不足の男子が多くなっていることが気になります	僕の場合、性的同意の大切さを伝えるために利用しているのは「お茶のたとえ話」とデズモンド・モリスの「親密さ(ふれあい)の12段階」です。 https://www.youtube.com/watch?v=-cxMZM3bWy0&t=16s https://www.youtube.com/watch?v=oQbei5JGiT8 https://revolver.co.jp/CEO/17335674 https://with.seicil.com/blogs/news/dk1 こちらを紹介して、簡単に説明しています(家に帰ってゆっくり見てねと付け加えます)。わかりやすく、すんなり入りやすいと思います。あまり説明しすぎないのもポイントかと思います。
	以前の講義で性に全く興味がない人の方が課題とおっしゃっていましたが、どんなことが課題か、またその課題に対してどのような関わりが必要だと思えますか	性に全く興味がない人(アセクシャル)は、そもそも性に関する話を聞かないかもしれないということがあります。知識として頭に入れておくという人は良いですが、自分には関係ないという人に、どれくらい関わるかという問題があります。講義でも例に挙げましたが、アセクシャルの方でも、将来恋愛や結婚の当事者になることがあります。組み合わせによっては、多くの問題を抱えることになることがあります。アセクシャルの方には、自分だけでなく、他の人がどのようなことを考えて(気持ちを抱えて)いるのかを知っておくために、性に関する話を聞いていただく(知識を入れていただく)ように働きかけることが大事だと思います。

宛先	質問	回答
北村先生	合計特殊出生率を上げるために、必要な支援やケアは何だと思えますか	少子化対策とは言っても、それは「国のために女性に産んでもらう」ことではありません。SRHRの立場からしたら、産む産まない、いつ何人産むかを本人が決められ、その希望の実現を妨げている経済的・社会的障壁を取り除く必要があります。その結果として出生率が回復する、という順序が重要です。しかし、出産可能年齢人口そのものが減っているため、出生率が上がっても出生数が直ちに増えるとは限らず、人口減少への適応策も同時に必要です。講義もお話しましたが、出産そのものに報奨金を出すよりも、若い世代が「希望する時期に、希望する人数の子どもを持てる環境」を整えることが重要です。
	緊急避妊薬を薬局で受け入れているところが、南の地方に行くにつれて少なくなっていますが、先生は原因について、どのようにお考えか知りたいです。 また、なぜ埼玉も少ないのかも知りたいです	緊急避妊薬のOTCができる薬局の条件は、①研修を修了した薬剤師がいること、②プライバシーの配慮した販売環境があること、③近隣の産婦人科医との連携体制がとられていることとなっています。したがって、地域差はこれらの条件が整えられているかどうかによっています。さらに、大手ドラッグチェーンの店舗構成によっては、数十～数百店単位で増減しますので、本部の姿勢が問われています。埼玉県では、連携医療機関への協力費を年間5万円～60万円が提示されたとの情報もあり、これが影響している可能性があります。